

青山学院中等部 塾対象説明会

開催日：2019年4月19日（金）10：45～12：00

リポーター：佐々木ゼミナール 猪瀬

昨年は工事中であった新校舎がついに完成し、その御披露目も兼ねた説明会でした。校舎設備は非常に充実したもので、贅沢な造りでした。

説明会は中等部の礼拝堂で開催されました。モダンなステンドグラスが印象的な明るいチャペルで、8月にはドイツ製のパイプオルガンが設置されるとのことです。参加者や50名程（昨年並み）でした。

中等部部长による教育方針の説明

2日後に迫ったイースターの話から始まり、本校の教育が「命は賜物である」というキリスト教の理念に基づくものであることや、毎日2限と3限の間に行われる15分間の礼拝が最も大切であることなどのお話がありました。

広報委員長から具体的な指導の取り組みについての説明

ポイントは「幼稚園から大学までの一貫教育」「男女共学」「教科センター型の授業」の3点。

「一貫教育」については、教職志望の大学生が放課後に中高生を指導する”スタディルーム”や、留学生との交流を図る”チャットルーム”などの例を挙げていました。

「男女共学」について、全クラスとも男女半数ずつで構成。また、初等科からの内部進学生と受験入学生も半数ずつにしているとのこと。

「教科センター型の授業」は、2017年から導入したシステムで、全ての授業を教科ごとの専用の教室で行うというもの。生徒たちはロッカーを備えたホームベース(HB)と呼ばれる教室に登校し、そこからそれぞれの教室に向かうこととなります。必要な資料や教材などを備えた教室で授業を受けられるので合理的だと思います。（動画を用いて生徒たちの日常の学校生活の様子が示されました。）

教頭先生から2019年度入試結果の報告

インターネット出願の導入について、また、受験者増加に伴い高等部の教室を試験会場にしたとの報告がありました。さらに受験者数、合格者数についての説明、各教科の出題内容の概説と問題ごとの大まかな正当率についての説明がありました。（来年度は曜日の関係で入試日が2月3日になるのですが、詳しい説明はありませんでした。）

リポーターの感想

- ・キリスト教信仰に基づく教育を進めていること、付属の共学校であること、施設面の充実をアピールしている印象を受けました。その辺りをどうとらえるかは各家庭の判断次第になると思います。
- ・資料を見直して改めて気がついたことは、募集人数と受験者数、合格者数です。

2019年度の予定の入学者数は男女各128名。そのうち、内部進学者が男子48名、女子61名なので、実際の募集人数は男子80名、女子67名です。これに対し、受験者は男子423名、女子536名、合格者は男子128名、女子100名。実際の入学者は男子80名（うち19名は補欠）、女子69名（補欠ゼロ）であり、女子が狭き門となっていることは一目瞭然です（合格最低点も男子は182点、女子は202点です）。「女子は人気があるから難しい」ということが数字で証明されています。ただ、内部進学者の数によって募集人数が変動するという点には注意する必要があるのではないのでしょうか。